

住宅提案のビジュアル化に注力

完成イメージ分かりやすく

コンピュータシステム研究所

コンピュータシステム研究所(仙台市、長尾良幸社長)は、15年は住宅提案ツール「アルタ」のさらなる普及に向け、住宅の完成イメージを施主により良く見せるため、ビジュアル化に一層力を入れる。

アルタは「木拾い積算の効率化」が図れるため、これまで建材販売店やプレカット工場で注目されてきた。活用方法はこれだけにとどまらず、ビルダー・工務店の住宅受注サポート用にも数多く利用されている。アルタの優れたプレゼン機能を利用すれば、施主の思い描くイメージを3D化し、分かりやすいプラン提案で受注率を向上できる。

3Dプランは、電子ペンで専用の方眼紙に間取り図を手書きするだけでパースに自動変換する。さらに、3Dプランの完成と同時に平面図・立面図・パースをプレゼンボードに自動でレイアウトできるため、時間も手間も掛けずに提案資料が完成する。細かな要望が求められるリフォーム案件も、施主と打ち合わせをしながら、その場で簡単に3Dプランを作成・変更でき、リフォーム後のイメージを具体的に提案できる。また、3年前からア

今後はよりイメージしやすい商品展開を目指す



けでは伝えきれない住宅全体のイメージを模型で分かりやすく施主に提示できるうえ、住宅の完成記念の贈り物としても利用されている。

同社は次の展開として、パッチャルリアリテイ技術を活用し、実寸大でプランを3D表現できるシステムを近々発表する予定で、住宅完成イメージをより良く見せるビジュアル化をさらに追求していく。

このシステムを活用すれば、住宅展示場だけでは賅いきれない施主の多様な要望に対応したプラン提案が行える。また、工務店やビルダーも住宅展示場のようにコストを掛けず、施主との確に打ち合わせできる。

住宅需要が限られていくなかで、同社は3Dパース・模型・VRといった完成イメージを見せる「ビジュアル提案」に重点を置いて、今後もシステムを開発・提供し続けていく。